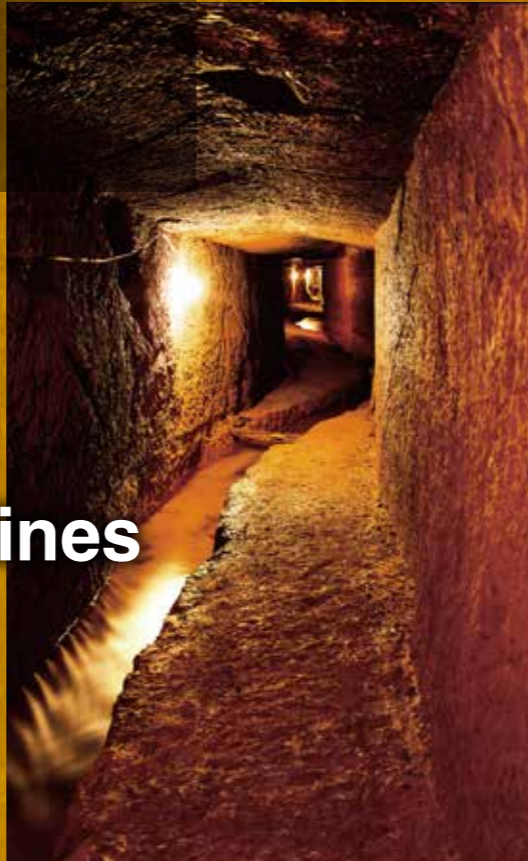


金の島のあふなるを
 その名と問へば
 佐渡と云也
 世阿弥金島書



かの海に



「佐渡島の金山」世界遺産登録記念誌
 新潟県 / 佐渡市



佐^さ渡^ど島の金山

世界遺産登録
 記念誌



新潟県 佐渡市

World Heritage Site
 Sado Island Gold Mines

「佐渡島の金山」世界遺産登録記念誌

2026（令和8）年3月31日

編集・発行 | 新潟県 観光文化スポーツ部
文化課 世界遺産室
〒950-8570
新潟県新潟市中央区新光町4-1
TEL：025-280-5726
<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/sado-goldmine>

佐渡市 観光文化スポーツ部
世界遺産課
〒952-1292
新潟県佐渡市千種232
TEL：0259-63-5136
<https://www.city.sado.niigata.jp/site/mine/>

さど 佐渡島の金山 世界遺産登録記念誌

Sado Island Gold Mines



新潟県



佐渡市

ごあいさつ

新潟県知事 花角 英世



2024（令和6）年7月27日に、インドのニューデリーで開催された国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の第46回世界遺産委員会において、「佐渡島の金山」の世界遺産一覧表記載が決議されました。

新潟県では、2006（平成18）年に登録推進に着手してから、約18年にわたり、地域住民の皆様や民間団体、国、佐渡市などとともに、登録実現のため全力で取り組んでまいりました。この取組が実を結び、「佐渡島の金山」が「世界の宝」として認められたことを誇りに思うとともに、この喜びを地元佐渡市の住民や県民の皆様と分かち合いたいと思います。

あわせて、これまで多大なるお力添えを頂いた佐渡金銀山世界文化遺産学術委員をはじめとする国内外の専門家の皆様や、国・県・市の登録推進議員連盟、佐渡金銀山世界遺産登録推進県民会議、佐渡を世界遺産にする会・同新潟の会・同首都圏の会、内閣官房・外務省・文部科学省・文化庁・佐渡市の皆様、地域住民の皆様など、長年にわたりご尽力いただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

「佐渡島の金山」は、世界の他の地域において採鉱等の機械化が進んだ時代に、高度な手工業による採鉱と製錬技術を継続したアジアにおける他に類を見ない事例として、その顕著な普遍的価値が認められました。この金生産技術やそれに関わった人々の営みの証拠である資産を未来に継承することは、私たちに課せられた責務であり、引き続き、国や佐渡市と連携して、その保存管理にしっかりと取り組んでまいります。

このため、新潟県と佐渡市では、2024（令和6）年12月に「佐渡島の金山」の保存管理体制である「佐渡島の金山」世界遺産会議を設置したところであり、資産の保存管理及び活用並びにその周辺環境の保全を推進してまいります。また、多くの方々に「佐渡島の金山」を訪れていただき、その価値や魅力を体感いただけるよう、国内外に向けた情報発信に取り組めます。佐渡島には日本海に浮かぶ島という環境や佐渡金銀山の存在を背景とした豊かな歴史と文化が息づいています。資産を未来に継承するためには、こうした佐渡島の特性を活かし、「佐渡島の金山」を核とした地域づくりに取り組むことも重要だと考えております。引き続き、皆様の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本記念誌の作成に多大なる御協力を賜りました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。発刊の御挨拶といたします。

ごあいさつ

佐渡市長 **渡辺 竜五**



2024（令和6）年7月27日、インド・ニューデリーで開催されたユネスコの第46回世界遺産委員会において、新潟県佐渡市に所在する「佐渡島の金山」の世界遺産一覧表への記載が決議されました。1997（平成9）年に登録に向けた地元有志の活動が始まって以来、約27年間にも及ぶ地道な取り組みが実を結ぶ歴史的な瞬間に立ち会うことができました。

これまで、「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録実現に向けて、長きにわたり多大なるお力添えを賜りました、佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会をはじめとする国内外の専門家の皆様、国や県、並びに市の世界遺産登録推進議員連盟の皆様、外務省及び文化庁、並びに内閣官房の皆様、そして、佐渡を世界遺産にする会をはじめとした民間団体や民間企業、地域住民の皆様など、これまで登録推進に関わってこられたすべての皆様に、改めまして深く感謝申し上げます。

佐渡島は、その立地条件から、古来より多様な文化や伝統が島へと持ち込まれ、島の歴史や文化の形成に多大なる影響を与えています。特に16世紀末から19世紀半ば、金山によって培われた伝統的手工業による金を生産する技術や体制、そして鉱山に由来して花開いた文化は、人類共通の宝物となりました。このかけがえのない宝物をしっかりと守り、次世代に引き継いでいくことが、私たちの重要な責務です。

「佐渡島の金山」を未来に継承し、世界遺産を核とした持続性のある地域づくりをより一層推進していくため、新潟県とこれまで以上に連携を深めながら、「佐渡島の金山」の保存や周辺環境の保全、活用に向けた整備を推進してまいります。また、「佐渡島の金山」が持つ価値や魅力を世界中の人に積極的に発信していくことで、佐渡島を訪れる方々により一層の感動を与えることができるよう、関係者の皆様と一体となって取り組んでまいりますので、今後とも皆様の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本記念誌の作成に多大なる御協力を賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げます、発刊にあたっての挨拶といたします。

寄稿

「佐渡島の金山」の世界遺産登録に寄せて

文化庁長官 都倉 俊一



2024（令和6）年7月27日、我が国が推薦していた「佐渡島の金山」が、インドのニューデリーで開催された第46回ユネスコ世界遺産委員会において、世界遺産一覧表へ記載されました。これにより、日本にとって26件目（文化遺産としては21件目）の世界遺産が誕生しました。

このたび世界遺産としての価値が認められたのは、欧米を中心とする地域で動力機械による鉱山開発が進展していく時期に、手工業生産が継続していた「佐渡島の金山」が比類なき事例として世界遺産に相応しいと評価されたからです。この時期は、いわゆる大航海時代を経て経済のグローバル化が進展していくことで、本格的な資本主義の時代が幕を開ける「激動の時代」にあたります。

一方、日本では徳川幕府による鎖国政策の中で「パクス・トクガワーナ」とも称される安定した政治秩序による平和が、250年以上もの長きにわたって達成された日本史上稀有な時代になります。この平和は豊かな文化、芸能、芸術を育むこととなりますが、それを「金」で支えたのが「佐渡島の金山」であることは、徳川幕府が直接管理、運営に関与したことから明らかです。このような日本の一時代を支え続けた「佐渡島の金山」が、このたび晴れて「世界の宝」として認められましたことは大変喜ばしい限りであります。

世界遺産登録に至るこれまでの道筋を振り返ると、「佐渡島の金山」の保存や価値の啓発にご尽力されてきた地元の方々、資産の保全管理を担う新潟県、佐渡市、株式会社ゴールデン佐渡の関係者の努力なくしては実現し得なかったものであり、皆さまのご尽力にあらためて敬意を表します。

申し上げるまでもなく、世界遺産登録は「世界の宝」である「佐渡島の金山」を確実に後世へ守り伝えていくスタートラインになります。これから次の世代、その次の世代へとこの素晴らしい遺産の価値を継承していけるよう、文化庁としても関係者の皆さまと連携しながら保護に取り組んでまいります。

寄稿

「佐渡島の金山」の世界遺産登録に寄せて

佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会委員長

お茶の水女子大学名誉教授 小風 秀雅



佐渡金銀山が暫定リスト入りしてから14年にして、世界文化遺産の登録が実現しました。産業遺産の宝庫と言われた日本で「佐渡島の金山」が新たに世界遺産に加わり、石見銀山、富岡製糸場、明治の産業革命遺産と併せて日本の産業遺産の多様性、分厚さが明らかになってきた、との思いが日々深くなっています。早くから世界遺産候補といわれながら登録までは長く困難な道のりでしたが、新潟県・佐渡市はじめ文化庁や学術委員会の諸先生方、関係諸団体の方々の御尽力の賜物と心より感謝とお慶びを申し上げます。

佐渡島内の金山は有数の産金国であった日本の代表的な金山であり、多様な特徴を示していますが、今回の登録では、17～19世紀当時の多様な金生産体制の有形証拠を完全に有し、手工業段階における卓越した技術水準を示す、として産業革命以前の生産技術の高さが評価されたことが注目されます。この点について、古くは幕末開港直後に来日した初代イギリス公使オールコックは、日本の文明は高度で「すべての産業技術は蒸気力や機械の助けによらずに到達することができるかぎりの完成度を見せている」（『大君の都』第35章）とし、その技術力は手工業段階における最高水準にあると感嘆しています。技術力の精巧さ、優秀さは現代でも日本の技術力の特徴とされますが、「佐渡島の金山」はそうした日本社会の文化的基層を表現する産業遺産として評価されたと言ってよいでしょう。

技術という見えにくい特質の真実性を明らかにする物的証拠となったのが、「佐渡金銀山絵巻」をはじめとする歴史資料でした。この一連の作業工程を描いた絵巻物は、世界に百点以上の存在が確認され、貴重な歴史資料として評価されています。これらの史料が遺物を理解する上で不可欠で重要な情報源となったことも注目されます。世界の産業遺産のなかでも一味違う遺産なのではないでしょうか。

今後への期待も膨らみます。かつて採掘が行われたことが明らかでありながら調査が進んでいない区域を将来的に国史跡として指定することを配慮するようにイコモスから指摘されており、今後も新たな発見が追加されることが期待されます。またエリア内には、産業遺産としての価値を有する近代の遺構も現存しており、全体としてどう管理・保全するかも今後の課題でしょう。

佐渡島の調査と発見はこれからも続きます。全容が明らかになる時が待ち遠しく思います。

ごあいさつ

新潟県知事 花角 英世
佐渡市長 渡辺 竜五

寄稿「佐渡島の金山」の世界遺産登録に寄せて

文化庁長官 都倉 俊一

佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会委員長 お茶の水女子大学名誉教授 小風 秀雅

第1部 世界遺産登録までのあゆみ

1	取組の概要	2
1)	世界遺産登録運動のはじまり（1997年～）	2
2)	推進体制の整備（2004年～）	2
3)	公募への提案と暫定一覧表への記載（2006年～）	3
4)	学術委員会設置から推薦書原案の作成（2010年～）	3
5)	推薦候補選定から登録決定（2021年～）	4
6)	今後の保存管理体制（2025年～）	5
	表 主な取組の経緯（概要）	6
2	推薦書の作成とイコモス審査への対応	18
1)	佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会	18
a)	構成員	18
b)	委員会・国際専門家会議の開催状況	18
2)	価値判断のための調査・研究	24
a)	国内調査	24
b)	海外調査	25
3)	国際会議等への参加	27
4)	イコモス審査への対応	28
a)	イコモス現地調査	28
b)	追加情報要請への対応	29
c)	中間報告での追加情報への対応	43
3	構成資産の保全に向けた取組	60
1)	国文化財への指定・選定	60
	表 構成資産及び関連遺跡の国指定・選定一覧	60
2)	緩衝地帯の設定・周辺環境の保全への取組	61
a)	緩衝地帯の設定	61
b)	周辺環境の保全への取組（緩衝地帯の保全）	62
c)	佐渡市景観計画の策定	62
d)	景観誘導の事例	63
4	支援体制の構築	64
1)	佐渡金銀山世界遺産登録推進県民会議	
a)	趣旨と設立の経緯	64
b)	会の性格	64
c)	組織	64
d)	活動内容	64
	別表 佐渡金銀山世界遺産登録推進県民会議総会の記録	65

2) 国県市議員連盟	
a) 新潟県「佐渡金銀山」世界遺産登録推進議員連盟 / 新潟県「佐渡島の金山」世界文化遺産を応援する議員連盟	
① 概要	67
② 役員	67
③ 活動	67
④ 視察の記録	70
b) 佐渡市世界遺産登録推進議員連盟	
① 概要	71
② 役員	71
③ 活動（定例会・総会・臨時会の記録）	72
c) 「佐渡金銀山」世界遺産登録推進議員連盟（国議員連盟①）	
① 概要	73
② 役員	73
③ 設立総会	73
④ 現地視察	73
d) 「佐渡島の金山」の世界遺産登録を実現する国会議員連盟（国議員連盟②）	
① 概要	74
② 役員	74
③ 設立総会	74
④ 現地視察	74
e) 「佐渡島の金山」世界文化遺産を支援する議員連盟（国議員連盟③）	
① 概要	74
② 役員	74
③ 設立総会	74
3) 民間団体による活動	
a) 「一般社団法人佐渡を世界遺産にする会」 / 「佐渡を世界遺産にする新潟の会」 / 「佐渡を世界遺産にする首都圏の会」	75
b) 鶴子銀山へ続く道を歩こう	75
c) 笹川の景観を守る会	76
d) 相川第二分団	77
4) 要望・要請活動	78
5 世界遺産登録に向けた機運の醸成	81
1) 講演会・シンポジウム・展覧会等の開催	81
a) 東京開催	81
b) 県内開催	83
c) 佐渡開催	87
2) 出前授業・出前講座の実施	91
a) 出前授業	91
b) 出前講座	92
3) 広報・情報発信資料等	92
a) パンフレット・ガイドブック・児童生徒向け学習教材	92
b) ポスター・リーフレット・バナー・のぼり旗・クリアファイル	93
c) 広報誌	93
d) メディア等を活用した発信	94
e) ラッピングバス	95

f) 普及啓発物品（貸出）	95
g) ポスターコンクール・写真コンテスト	95
h) ロゴマーク	96
4) ガイダンス施設の整備	96
5) 国際的理解促進に向けた取組	99

第2部「佐渡島の金山」の概要

1 世界遺産登録推薦書に記載した資産の内容	102
1) 締約国	102
2) 地方	102
3) 資産の名称	102
4) 所在位置	102
5) 資産の範囲についての説明	102
6) 適合される評価基準	102
7) 顕著な普遍的価値の言明	102
a) 総合的所見	102
b) 評価基準の適用	102
c) 完全性の言明	103
d) 真実性の言明	103
e) 保存と管理に必要な措置	103
2 資産の概要	104
1) 地理的・地質的特徴	104
a) 所在地と地理的特徴	104
b) 地質的特徴－鉱床－	104
2) 「佐渡島の金山」の顕著な普遍的価値を証明する3つの特徴	106
a) 鉱床の特性に適合して深化した伝統的手工業による鉱山技術	106
b) 高品位の金生産を可能とした一連の生産工程	107
c) 徳川幕府の施策に基づく管理・運営と大規模に統合された金生産体制	107
3) 鉱山の人々によって育まれた文化	110
3 構成資産の概要	
1) 西三川砂金山	111
鉱山地域	
a) 虎丸山	112
b) 立残山	113
c) 五社屋山	114
d) その他の採掘場跡と導水路	116
集落地域	
e) 金子勘三郎家	117
f) 金山役宅跡	118
g) 大山祇神社	119
h) 笹川集落	120
2) 相川鶴子金銀山	121

・鶴子銀山	122
鉾山地域	
a) 百枚平地区	123
b) 屏風沢・仕出喜沢地区	124
c) 大滝地区	124
集落地域	126
a) 鶴子銀山代官屋敷跡	126
b) 鶴子荒町遺跡	129
c) 西五十里道・鶴子道	130
・相川金銀山	131
鉾山地域	132
a) 道遊の割戸	133
b) 宗太夫間歩	134
c) 大切山間歩	135
d) 南沢疎水道	136
集落地域	137
e) 上相川地区	138
f) 上寺町地区	139
g) 相川上町地区	140
h) 佐渡奉行所跡	141

第3部 登録に係る資産の評価及び審議・決議内容

1 イコモス評価書及び事実誤認の訂正文書	144
1) イコモス評価書	144
2) 事実誤認の訂正文書	174
2 第46回世界遺産委員会における審議	175
1) 世界遺産委員会の決議文【顕著な普遍的価値・追加勧告】	175
2) 第46回世界遺産委員会における審議	180
3) 第46回世界遺産委員会における「佐渡島の金山」登録決定時の大使・知事スピーチ	183
3 内閣総理大臣・外務大臣・文部科学大臣のコメント	
・岸田文雄内閣総理大臣	184
・上川陽子外務大臣	184
・盛山正仁文部科学大臣	184
4 第47回世界遺産委員会における審議	185

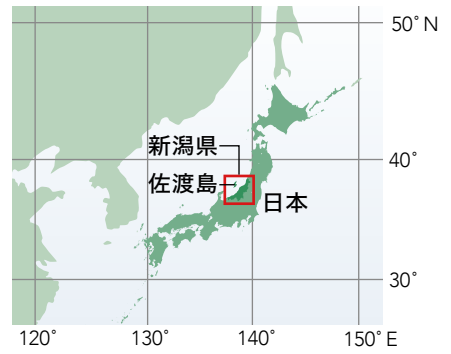
【附編】 登録前後の取組

1 世界遺産委員会パブリックビューイングの開催	189
2 県内各地の盛り上がり	189
3 登録祝賀記念イベント	190
4 世界遺産登録記念フォーラム「佐渡島の金山」と大阪	190

凡 例

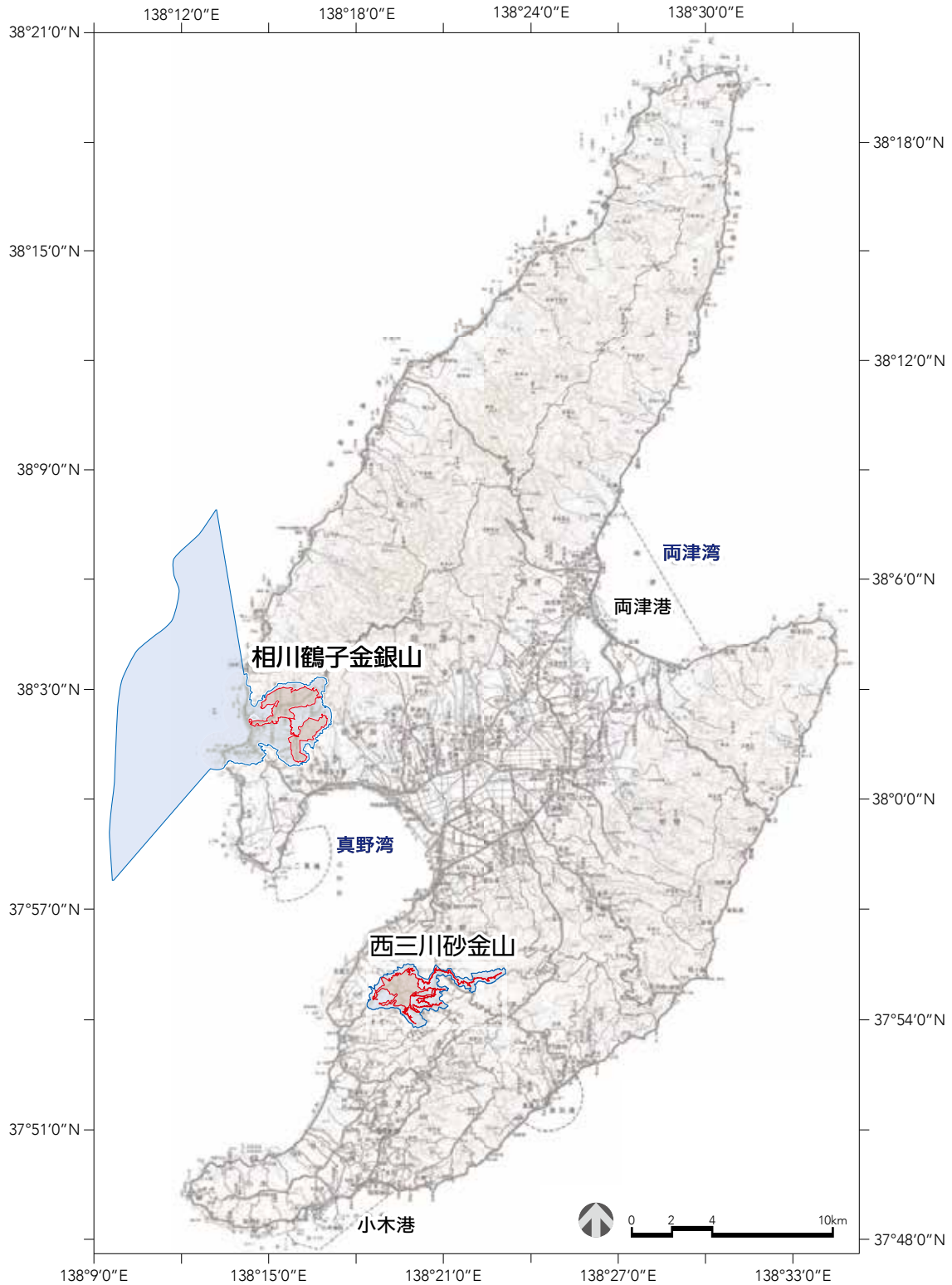
1. 本書は、2024（令和6）年7月27日に開催された第46回世界遺産委員会において世界遺産一覧表への記載が決議された「佐渡島の金山（Sado Island Gold Mines）」の世界遺産登録までの経過、国際記念物遺跡会議（イコモス）による評価、世界遺産委員会決議、資産及び構成資産の概要等を掲載した世界遺産登録記念誌である。
2. 年代の表記は、西暦表記を基本とし、和暦を適宜併記した。人名・組織名等の固有名詞は、当時の呼称を使用し、適宜現在の呼称も併記した。また、本文中の人名については敬称を省略した。
3. 世界遺産登録記念誌の刊行にあたり、文化庁長官 都倉俊一氏、佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会委員長 小風秀雄氏（お茶の水女子大学名誉教授）にご寄稿いただいた。
4. 掲載写真は、新潟県・佐渡市が撮影したものを使用し、それ以外のものは必要に応じて撮影者を記した。
5. 本書の作成にあたり、以下の機関から協力を得た。深甚なる謝意を表します。
新潟日報社

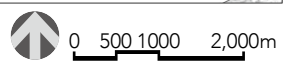
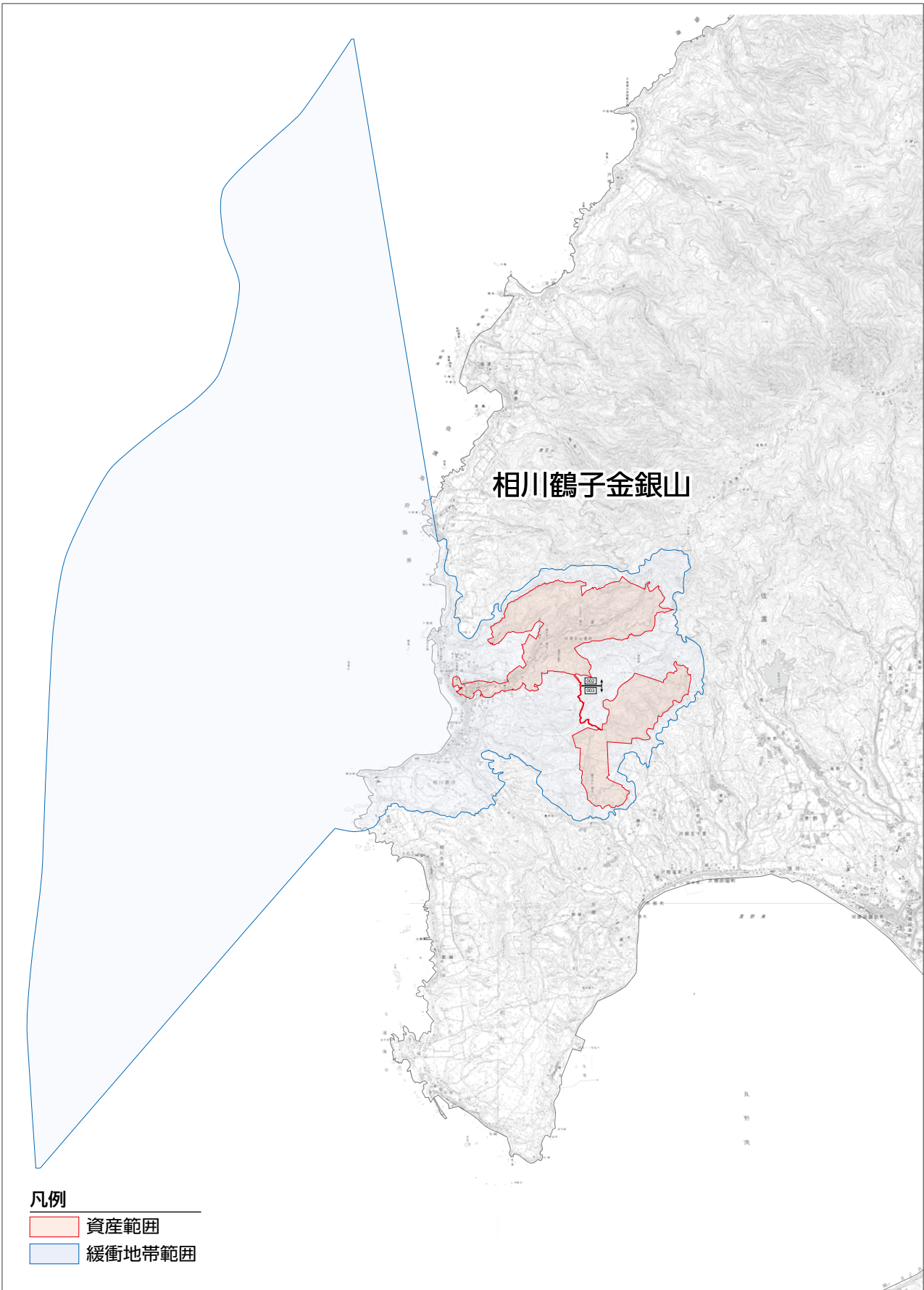
「佐渡島の金山」の構成資産

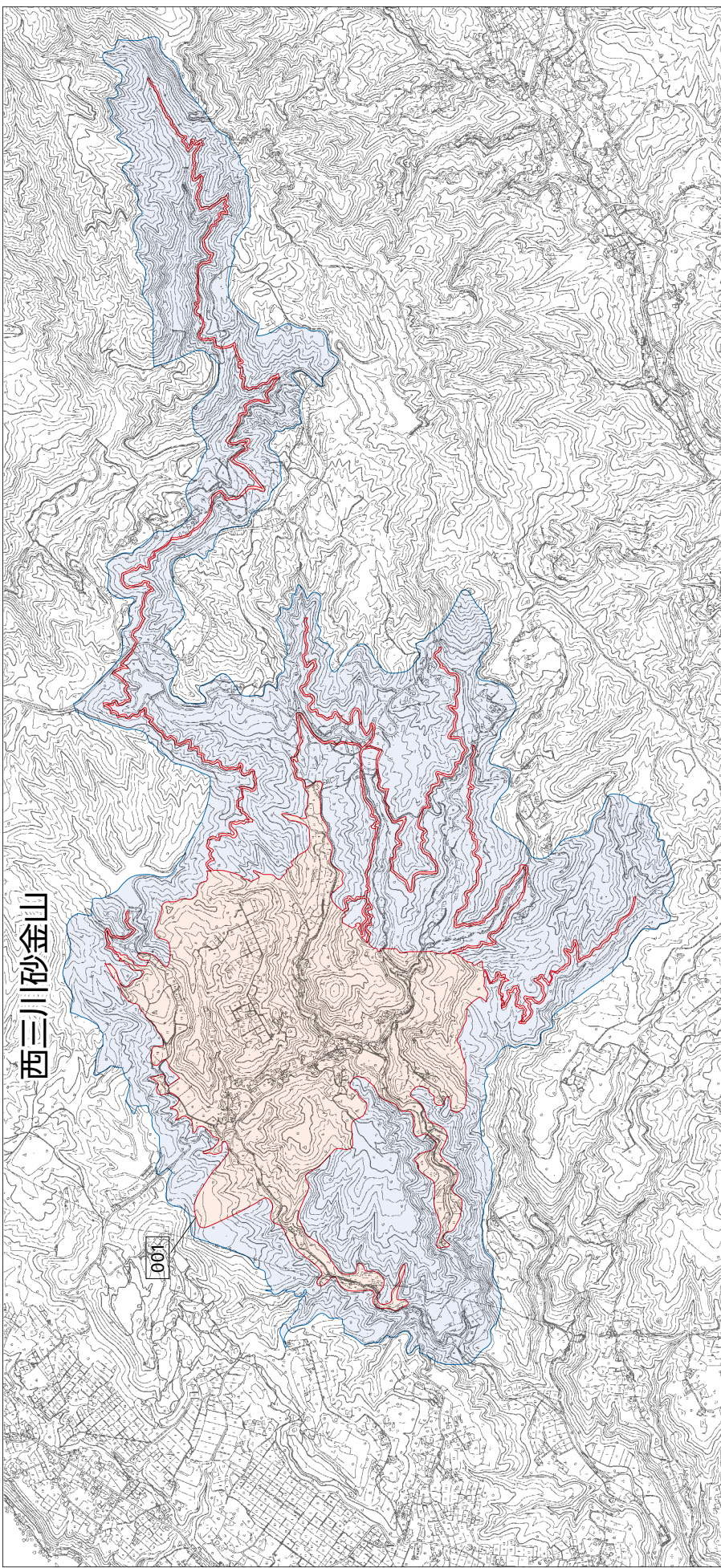


凡例

- 資産範囲
- 緩衝地帯範囲







西三川砂金山

001

凡例

資産範囲

緩衝地帯範囲



0 500 1,000m